

## 目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 裾野市深良地区まちづくりコンソーシアム

上位関連計画にみる地域の将来 <人口予測（現状推移）> 5万4千人（2010年）→4万7千人（2050年） 高齢化率：19.1%（2010年）→34.0%（2050年） <CO2削減目標>※基準年度：2005年度 短期（2020年度）16%削減（588.6千t-CO2） 中期（2030年度）26%削減（520.0千t-CO2） 長期（2050年度）80%削減（140千t-CO2）	<上位計画において課題と認識されている事項> ・人口減少への取り組み（世代間バランスを重視した人口政策、結婚・子育ての希望に応える、暮らしたい・働きたいの希望に応える） ・あるもの磨きによるまちづくり（人々の暮らし満足度の最適化を目指す） ・共に創る（施策の目的とその成果を市民と行政が共有するための、積極的な情報提供・公開） ・将来を見据えた都市経営（長期的な視点に立って地域全体を経営するという意識）
--	--

②具体的なアクション

- 森林整備←地域活力創造センター・山林所有者・ミタケ総業・いしい林業・芙蓉商会・裾野市役所
- バイオマス施設整備←サナース・大岡建設工業・地域活力創造センター・芙蓉商会・リコー・裾野市役所
- 皆伐エリアにおける森林参加型プロジェクト←地域活力創造センター・芙蓉商会・リコー・裾野市役所
- 地域内イベントの開催←リコー・地域活力創造センター・芙蓉商会・興禅寺・恋路亭・裾野市役所
- 教育事業←地域活力創造センター・リコー・芙蓉商会・裾野市役所

### ③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	森林環境整備	森林整備面積（累計）	18	36		ha
	木質バイオマスの普及	木質チップ供給量（年間）	600	800		t
		木質バイオマス利用施設数（累計）	0	1		件
	経済	未利用資源の活用	空家の利活用提案数	0	1	
		耕作放棄地の利活用提案数	0	1		件
		地場産品開発企画数	0	1		件
地域間交流の促進		域外からの参加事業者数	0	1		人
		コンソーシアム活動視察人数	0	1		人
		コンソーシアム発のイベント数	0	30		回
社会	環境整備・環境保全イベントの実施	イベント参加者数	0	30		人
	広報活動の活発化	コンソーシアムHPアクセス件数	0	200		人
		コンソーシアム活動のメディア掲載件数	0	3		件

### ⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

環境	・川上の森林整備および川下の木質バイオマスの利活用が同時に展開される事により、Co2削減に貢献できる。
経済	・空家や耕作放棄地を交流促進や商品開発のために活用したり、地域イベントを企画したりする事により、交流人口の増加による地域の活性化に貢献できる。
社会	・コンソーシアム等による地域イベントや情報発信を通じて、市民の環境や景観への関心度が上がり、活動意識の醸成に貢献できる。
相互影響	・森林整備が進めば、土砂災害等の防災・減災になる（環境→社会） ・森林整備の現場や木質バイオマス拠点、地域間交流の場としても利用される（環境→経済） ・市民の活動意識の醸成が高まれば、市民参加型のイベント等を通じて地域内外の交流が増加する（社会→経済） ・空家や耕作放棄地が利活用されていけば、景観の改善にも繋がる（経済→社会）

### ①目指すべき姿

## 森のチカラ、最大化

・裾野市深良地区の最大の地域資源は地域の大部分を占める森林です。当コンソーシアムは、深良の森には「林業を育む」「製品や燃料となる木材を供給する」「澄んだ水を供給する」「訪れる人を癒やし楽しませる」「富士山の絶景を映し出す」「箱根に接続する」「土砂崩れや温暖化を防ぐ」といったチカラがあると認識しております。

・そして、これらのチカラが持続可能な形で最大限に活用される事によって、交流人口増加による地域活性化と同時に、脱炭素社会や防災・減災都市が実現すると考えております。

・一方で、これまで森林整備、未利用材活用、森林の観光・教育面での利用等については、十分な活動が実施されてきたとは言えず、結果として深良の森のチカラを十分に活かしきれていないというのが、現状の課題認識です。

・そこで、当コンソーシアムでは、深良の森のチカラを最大化するために、林業（森林整備等）、エネルギー事業（未利用材による発電、熱利用等）、観光事業（キャンプ場、富士山の展望、箱根との連携等）、教育事業（森林体験、プロの育成等）を推進します。そして、交流人口増加による地域活性化と同時に、脱炭素社会や防災・減災都市の実現を目指します。

### ④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	脱炭素社会の実現	木質チップ供給量（年間）	600	800	2,030	1,500	t
		木質チップでの熱エネルギー量※1	38,502	51,336	2,030	96,255	gj
		木質チップで代替される石油量※2	920	1,226	2,030	2,299	t
	防災・減災都市の実現	森林整備面積（累計）	18	36	2,030	140	ha
経済	地域の活性化	深良地区への観光客数（年間）※3	520	630	2,030	1,040	人
		コンソーシアム発の商品・サービスの売上（年間）	0	1,500,000	2,030	20,000,000	円
社会	環境への市民意識の向上	空気や河川の水のきれいさ※4	56.5	60.0	2,030	70.0	%
		まちなみや自然の景観の美しさ※5	37.6	40.0	2,030	60.0	%

※1 未利用材木質チップによる熱エネルギー量として64.17GJ/t（0.3m<sup>3</sup>=1t） ※2 原油換算トンとして1GJ=(1GJ)/(41.868GJ/toe)=0.023885toe

※3 ステークホルダー施設への域外ナンバー車カウント（1台×2名として） ※4・※5 裾野市市民意識調査（深良地区）より「満足」及び「やや満足」の度合い